
いつまでも

かたな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いつまでも

【Nコード】
N0230A

【作者名】
かたな

【あらすじ】
サラリーマンとして働く主人公は退屈な毎日に嫌気がさす。そんなある日公園であつた不思議な少年が忘れていた夢、人生を思い出すチャンスを与える。

プロローグ

いつからだろうか？空がよどんでみえるようになったのは。いつからだろうか？世界に取り残されていると感じだしたのは。

いつからだろうか？こんなにも毎日が退屈になったのは。そして、死に魅かれはじめたのは。死には抗いがたい魅力がある。俺はもうのがれられない。

ココまで書いてペンを止めた。

これではまるで遺書である。俺はこんなことを言いたいんじゃない。俺は…

第一話

俺がこの会社に入ってもう五年になる。

単純作業の繰り返しで退屈な毎日である。

「ほら、手とまってるぞ！」

上司からのお決まりのことを言われる。「すみません」

心からの返事のはずはなくその場をやりすごす。

思えば入社した当時はやる気に満ちあふれていた。

それが年を重ねるにつれ次第に薄れていった。

今の俺には守るべき家族もない。

生きる目標がみつからない。俺はなんのために生きているのだろうか？

友達はいる。

親友と呼べるか分からないがそれなりの付き合いはしているつもりだ。

仕事帰りに飲みに行っても愛想笑いを浮かべているだけ。

そんな態度を見抜いてか友人の一人がきいてくる。

「お前、たのしんでる？」

「楽しいよ、なんで？」

なるべくその場の雰囲気壊さないよう慎重に答える。

「ならいいけど」

そっけない返事をし友人はまた盛り上がる。

俺は蚊帳の外だ。この場にいるのを苦痛に感じ俺は店を出た。

帰り道人混みを避けるように裏道を使った。

こういうときはなんとなく一人で飲みたい気分だ。

俺は途中のコンビニでビールを二本買い近くの公園のベンチで一杯やることにした。俺はビールを飲みながら色々と考えた。昔はよかった。

学生生活は楽しかった。

夢もあった。

しかし、その先がでてこない。

自分の夢がなんだったのか、まったく思い出せない。

あの頃はバカなことやった。

今の会社に入ったのも夢の実現のためのはずだった。

でも現実とは違った。

いつしか夢を忘れてしまっていた自分に気が付いた。

俺の夢ってそんなものだったのか？そんなことを考えていると自分が矮小な人間に思えてきた。

とりあえず帰ろう、そう思いベンチから立つと反対側のベンチに一人の少年が座っていた。

最終話

こんな時間になんで子供が？少し気になるがもう帰らなくて公園を後にしてしばらく行ったがやはりあの少年が気になった。戻らなくて。なぜかそういう気持ちに駆られてしまった。

ほどなくして公園に戻るとその少年はまだいた。

何だかほっとしたような気持ちになった。

この子はどこの子だろう？と思い思い切って話し掛けてみた。

「僕、なにしてるの？」

すると少年はかすかな声で囁いている。

なんだろう？それは歌のようだった。

頭のなかに何か引つ掛かる。

思い出した。それはまだ俺が小さい時に好きだった曲だ。

それともに小さい頃の思い出が頭のなかを駆け巡る。

ああ…思い出した。全部。それは夢。

大人になるにしたがって忘れていった夢。

まだ間に合うかな？

なんだろう？俺今前向きになっている。

ふと見ると少年はそこにはいなくなっていた。

空を見上げると星空が綺麗だった。

いつものどんよりとした空はそこにはなかった。俺は上を向いて家へと歩いていった。

家に着いて少し考えた。

夢。それを達成させるには準備が必要だ。幸い俺の手元には必要なものがそろっている。

一通り身の回りを整理して一息つく。まだ迷っている自分がいる。どうするべきか？ふと両親の声が聞きたくなった。

実家に電話をいれると、父がでた。

「もしもし」

「あ、俺、和之だけど」

「どうした？元気にやってるか？」

他愛もない話を繰り返し電話を切る。

自然と涙が流れてきた。言えなかった。ゴメンの一言が。それがすごい心残りだった。

父さん、母さんゴメンと心のなかで何度も唱えた。

友達の顔も浮かんだ。泣いてくれるのかな？俺なんかのために。様々な思いが胸をよぎる。しかし心は決まった。

俺はそれを一気に飲み干し床についた。

しばらくして知覚が麻痺していくのがわかった。

俺はかすかに残った感情のなかで祈った。

夢がかないますように。次は幸せになれますように。それが俺の夢……。

最終話（後書き）

前作で感想くれた方ありがとうございました。今作は中途半端な感じになってしまいましたが、読んでくれたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0230a/>

いつまでも

2010年10月8日22時49分発行